

大学と地域との語り場

島づくりを担う人の育成のために大学ができること - 奄美群島を事例に -

主催：鹿児島大学生涯学習教育研究センター、かごしま COC センター
後援：鹿児島県教育委員会（予定）

■日時・場所

日時： 2月 22 日(日)13 時～16 時 15 分
場所： 鹿児島大学共通教育棟2号館 212-213 号室

奄美群島を事例にして、島づくりを担っていく人を育て、ともに成長していくために大学として何ができるかについて、地元の方や行政関係者とともに考えていきます。

島づくりとは、島に暮らす人が外の人の力も活用しながら、島にある自然や歴史など地域の個性を基盤にして、島で幸せに暮らさつづけるための日々の行為です。そこには、様々な課題や可能性が秘めています。大学は、そのような島づくりとどう向き合うかが、今問われています。

一方、国が進める「地方創生」の波は、教育分野、産業分野、福祉分野など全ての分野にまたがります。しかし、それらがバラバラに現場レベルで展開すると相乗効果は期待できません。バラバラに展開しないためには、分野間の垣根を低くしていける対話が必要です。とくに島づくりの担い手を支える仕組みは、垣根を取り払って考えてこそ効果は高まります。

鹿児島大学では、2014 年 9 月に鹿児島大学生涯学習憲章を制定しました。そこでは、「地域に生きる人びとと大学人がともに学び教え合う関係から知の循環を促し相互に成長していくこと」を本学の生涯学習の理念として定め、大学と地域の相互理解を深める機会を創出すること方針に掲げました。今回は、大学と地域が対話する実践の場として、次につながる具体的な活動提案を導き出したいと考えています。

■趣旨

■特別ゲスト

文部科学省生涯学習政策局社会教育課企画官 水畑順作

※地方創生と社会教育・社会教育主事の今後の施策の方向性等について最新情報を提供いただくとともに、地域人材の養成における大学の役割と地域との連携のあり方について助言頂きます。

奄美市町村会長・伊仙町長 大久保 明
樟南第二高等学校長 牧園弘光
(株)しまバス専務取締役 岩崎勇登
(株)南海日日新聞社 記者 山崎みどり
鹿児島県立大島北高等学校 2 年生 萩原千桜
鹿児島県立大島北高等学校 2 年生 川上智香
奄美群島広域事務組合 観光物産係長 林 健太郎
与論町認定農業者連絡協議会会長 牧 房男

奄美
群島

■出席者

※敬称略

副学長 武隈 晃
法文学部長 平井一臣
農学部長 富永茂人
COC センター長 木村郁夫
国際島嶼教育研究センター長 河合 溪
学術情報基盤センター 升屋正人
生涯学習教育研究センター長 萩野 誠
薩南諸島の生物多様性とその保全に関する
教育研究拠点形成 鈴木英治
鹿児島環境学プロジェクト 山本智子
鹿大法文学部 4 年生 松永千紗
鹿大工学部 3 年生 川田真人

大学

県行政

鹿児島県教育庁 社会教育課長 緒方玲子
鹿児島県県民生活局 共生・協働推進課長 印南百合子
鹿児島県企画部 離島振興課長補佐 上舞 誠
鹿児島県大島教育事務所 社会教育主事 橋野三智男

■司会・進行

総合司会：生涯学習教育研究センター 酒井佑輔
コーディネーター：生涯学習教育研究センター 小栗有子